

「市民が輝き地域を照らす」提言



令和 5 年 1 1 月 1 0 日

第9期 市民協働推進会議

はじめに

少子化や核家族化が進んでいる中で、ますます高齢化が進んでおり、ご近所付き合いや地域行事への参画、また、町内や地域組織等への関わりの希薄さが顕著になってきました。それに加え、人口減少や令和2年から広がった新型コロナウイルス感染症の影響により、人との交流がますます希薄になってしまいました。

市民の人口減少は市の財政に直接影響を及ぼし、行政の中長期的なビジョンの策定や実行に大きな影響を与えます。一般市民の中には「税金を納めているのだから市民の困りごとの解決はすべて行政側」と考えている方も少なくありませんが、このような状況においてすべて行政側に負担を押し付けることは、近い将来、行政の機能が行き詰まり破綻する結果を導いてしまうでしょう。市民側の自助・互助により自分たちのできることを少しでも担っていくことで、行政側の負担を軽減させ、持続可能なまちづくりにつながります。その行政負担を軽減させるには、市民のつながりと連携が大きく影響するでしょう。またこれは、行政側・市民側それぞれが勝手に活動するのではなく、同じ目的を達成させるために互いに連携し合い、両輪となって活動することがとても重要です。そのためにも『市民活動計画』が必要になってきます。

そこで、私たち第9期市民協働推進会議では、第8期に提言された『市民で創る市民活動計画』について、「地区におけるまちづくり活動計画づくり（地区版グループ）」と「市民活動・NPOにおける市全体の活動計画づくり（市民活動版グループ）」に分かれ、どのように市民が関わって創っていくのが良いのかを深堀りしました。

なお、今期の市民協働推進会議として活動をするなかで、第9期委員として活躍されていた橋本國宏委員におかれましては、鯖江市のまちづくりに大変御尽力いただいておりますが、令和5年8月に御逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

令和5年11月

第9期市民協働推進会議
委員長 青山 茂右衛門

<「地区におけるまちづくり活動計画づくり（地区版グループ）」の活動内容報告>

1 地区におけるまちづくり活動計画づくりについて

前回の提案以降、鯖江市では市の施策目標に「各地区のまちづくり計画の策定数」を加え、その推進をはかることとなりました。

一方で、各地区のまちづくり計画を策定するには、計画の策定に関わる地区住民の皆さん、特に地区区長会をはじめとしたそれぞれの地区の各種まちづくり団体、さらにはその活動を実質的に支える地区公民館関係者の理解・協力が不可欠です。

このため、地区版グループでは、以下の活動を行いました。

- (1) 鯖江市区長会連合会役員との懇談・説明会（2回実施）
- (2) 区長会連合会幹事会学習会への講師出演（市民主役フォーラム 2022 において、市民まちづくり応援団要請講座として1回実施）
- (3) 公民館館長との懇談（吉川公民館・2回実施）
また、第8期提言後に各地区において、地区のまちづくり関係の事業・組織づくりで、どのような進展があったかを把握するためのヒアリングを、市民協働推進会議メンバーおよび市事務局で実施しました。
- (4) 公民館館長および関係市民団体へのヒアリング（吉川公民館・鯖江公民館・河和田公民館・各1回実施）

このうち(4)の公民館館長および関係市民団体へのヒアリング結果を今期報告し、この2年間の成果・課題の確認と、今後の計画策定に向けたロードマップの提案としたいと思います。

(5) 地区ヒアリング内容

【吉川公民館】

ア 公募市民の参画

吉川地区のまちづくり団体としては「吉川まちづくり協議会」があります。協議会の役員メンバーは、各町内区長、各種団体長、まちづくり推進委員・会長委嘱の専門員で構成され、6つの委員会に分かれて活動を行なっています（会長は、地区区長会長）。

コロナ禍で住民の間のつながりが薄れていった中で、令和3年12月に地区社会福祉協議会の今後の地区福祉活動計画に生かすため、地区住民に対しアンケート調査を実施。その結果をもとに座談会など勉強会を重ねたのち、「よしかわ支え合いプラン」の策定委員会を立ち上げ、3年間の活動計画を作りました。

また昨年8月、地区内におけるコウノトリのひな誕生を契機に、地区住民が発起人となって「よしかわ“コウノトリ”ファンクラブ」が発足し、活発な活動が行われています。さらに、吉川地区の魅力を再発見できるような地区の見どころを盛り込んだ「吉川歩いて見よっさ！ふれあいマップ」の作成も行いました。マップのイラストは市内高校生に依頼

して、素敵なまち歩きマップが完成しました。

これらいくつかの新たな活動が始まったことで、「公民館だけが動いていてもだめで、地域の住民自身が自分たちでできる体制・幹を作っていくことが必要」と感じているとのことでした。

こうした経験から今年1月には、「吉川まちづくり協議会」の会則の中に、「委員会に属さない一時的事業について、公募などにより実行委員会を設置することができる。」と追記し、固定された実行委員会の他に、臨機応変に対応できる実行委員会の設置ができるようになりました。

今年度は、「鯖浦線」の歴史を掘り起こすイベントの実施等にも公募市民が参加し、生き生きと活動する姿が見られるようになっていきます。

イ 誰でも気軽に集まることのできる公民館づくり

公民館では各種団体の会合や、文化講座・スポーツ教室等が行われています。しかしこれらに参加する以外の方が、用事もなく訪れることは稀でした。公民館を、理由もなくふらっと立ち寄って、住民同士がおしゃべりし合うような場所にしたいとの思いから、入口付近のロビーに「フリースペース」を設けることとしました。

また、学校を退職された元教諭の有志の方に呼びかけ、長期休暇中の子どもたちのために勉強を教えるための教室を公民館で開設したり、中高生向けに空きスペースを活用した「フリー・キャンパス」を設置。これまで公民館を利用することが少なかった層の住民にも、公民館に足を運んでくれるような取り組みも始めています。

ウ 住民の方からの提案

これらの取り組みを重ねてきたところ、今年になってある地区住民の方から、「時間のあるときに、勉強教えてあげてもいいよ」という声上がり、公民館に子どもたちの居場所をつくることができました。

「住民によるまちづくりの兆しが見えてきている。住民の皆さんが充実感・楽しさを得るには、やらされ感でなく自主的な自らの事業としての活動を増やしていくことが大切」と述べられていました。「こうした活動のその先に、地区のまちづくり計画づくりも見えてくるのかもしれない。」とのことでした。

【河和田公民館】

ア まちづくり協議会の結成

河和田地区では、地方創生の時勢を機に、あらたなまちづくり組織の必要性が生じ、従来の組織を改編して、「うるしの里かわだまちづくり協議会」を発足させました(2018年)。この協議会において、コミュニティセンター改修時にも住民の利活用等について協議を重ねることとなりました。

これは、地区の既存のまちづくり組織を改編して発足させたという点では、北中山地区

に続く市内２番目の事例です。組織発足の前段では、市と市民主役条例推進委員会（地域自治部会）が平成２４年から取り組んだ「市民まちづくり応援団養成講座」の河和田地区版の講座としてワークショップを行い、広範な住民の皆さんと議論を重ねた結果もここに反映されているといえると思われます。

現在、この協議会は５つの部会で活動中ですが、高齢化率４０％を超え限界集落、準限界集落を抱える地区として、今後、いかに地域を盛り上げたいと思っている人たちを繋いでいくか、掘り起こすかと、若い人たちのまちづくりへの参画を活発化できるかが大きな鍵となっており、いずれにしても大きな分岐点にきていると感じているので、

今後、「まちづくりを主体的に捉えてくださる人を増やし、継続的に活動を行っていくことは簡単ではありませんが、協議会でも年ごとに組織体制等を見直しながら、より多くの住民の皆さんの参加を目指していきたい」とのことでした。

イ 公募市民および外部人材の参画

それぞれの部会には団体からのあて職のほかに、公募・自主参加のメンバーも加わっています。

河和田地区には、以前から行われてた県外の学生による河和田アートキャンプ事業関係者や、若手の漆器職人、地域おこし協力隊等、外部から来られた人が多くいらっしゃることもあり、これらの方々の一部も協議会に参加していることは、大きなアドバンテージであったと考えられます。

また、河和田地区には、比較的長い期間、継続的に活動を行っている市民団体・NPOも多くあり、これらの主要メンバーが「うるしの里かわだまちづくり協議会」のメンバーを兼ねていることもあり、外部組織と連携する事業が多いことも特徴のひとつです。

すべての事業を協議会自体が行うのではなく、外部団体の力を生かしながら Win-Win の関係で効率的な事業運営を図ることは、今後の人口減少社会を見据えても非常に参考になる事例と思われます。

ウ 機動的な運営

河和田地区は、国の「農泊地域高度化促進事業」など各種補助金・交付金を活用し、多くの新事業に取り組んでいる点でも特筆されます。このような外部資金の活用にあたっては、補助金・交付金の募集情報にアンテナを張りつつも、機動的な意思決定が求められる場合が多いと思われます。

このような場合に、地域の自立的・包括的なまちづくり組織「うるしの里かわだまちづくり協議会」が、地元での事業の受け入れ組織として名乗りを上げたり、また、支援・下支え組織として参画することは事業採択に非常に有利に働いていると思われます。

【鯖江公民館】

ア 市民まちづくり応援団養成講座からの発展形

鯖江地区で熱心に地区の魅力発見や活性化に取り組んでいる組織のひとつに、「鯖江地区市民まちづくり応援団」があります。この組織は、上記「市民まちづくり応援団養成講座」の鯖江地区版を修了された地区住民の皆さんで結成された団体で、平成28年に活動をスタートされました。

以来、「さばえ狂歌作品コンクール」「38(サンパチ) 鯖の日 SABAE の日」「さばえすろく」というすでに市内外に有名となった3大事業を中心に活動を行っています。

イ 区長OBが多数参加

この応援団の特徴は、上記の鯖江地区版の養成講座を受講された当時の区長さんが多く参加されていることです。区長さんは各町内での区長業務や地区のまちづくり活動を通じ、多くの経験と実務的ノウハウを備えておられます。ただし、区長の任期が終わると、公民館等への出入りも減り、各種団体の役員等をしていなければ、なかなか継続してまちづくり活動に参画する機会が、得られにくくなったことも事実です。

しかし、鯖江地区では誰もが自由に継続的に参加できる応援団組織としてまちづくり応援団があることで、これら貴重な人材の参加が可能になっています（神明地区の応援団組織である「楽しんめい」も、同じように区長OBの参加を得て活動されています）。

ウ 自主運営・自主財源

現在、「鯖江地区市民まちづくり応援団」は、鯖江地区区長会や鯖江公民館からの支援はあるものも、運営的には自主組織として活動されています。財源については、鯖江地区区長会からの支援をはじめ、「38(サンパチ) 鯖の日 SABAE の日」の焼きサバやオリジナル鯖缶の売り上げなどで自主財源の確保に努めています。市からのまちづくり応援団への支援事業のほかには補助金もほとんど活用せず、自主運営を貫いています。

このため、応援団メンバーの中には、「北中山地区や河和田地区のような包括的なまちづくり組織がなくても、活動は可能。むしろ自由な活動ができて今のままの方が良い」というような意見をお持ちの方もいらっしゃいました。

すでに活発な活動を行っている団体の皆さんの意見として、これも傾聴すべきものと思われる。

いずれにせよ、まちづくり組織のあり方には地区それぞれの事情があり、これらをよく踏まえて組織化をはかることが必要と思われる。

今回の公民館館長および関係市民団体へのヒアリング結果や、この2年間の成果・課題等を踏まえ、次のとおり今後の計画策定に向けたロードマップの提案をします。

(6) 地区まちづくり計画策定にあたりロードマップが必要。

ア 学ぶ～「地区まちづくり計画」(必要性)を「まちづくり有志」が学ぶ。

イ 知る～市民(地区住民)に知ってもらう。(見える化)

ウ すすめる～モデル地区などで推進。

エ 計画策定

※手順が大事

※1年ごとに着地点、達成感が必要→1年任期でも達成感があれば次につながる(後継者育成、持続可能)

まちづくり組織3原則

(①計画がある、②だれでも入れる仕組み、③分野別組織あり)

【「地区まちづくり計画」策定にあたりポイント】

ア 公民館、地区区長会等に必要性を理解してもらう。

※市民協働の重要性を地区ごとに周知すべき。

※各地区によって特色、特徴があり、それぞれの地区に応じた計画が必要。

策定期間も、地区によりバラバラでよい。

イ 市民がどうしたら熱くなるか

※計画策定は急がない。市民が熱くなって、自発的に策定する期を促す。

→市民がどうしたら熱くなるか→しくみづくりが必要

※意見しやすい環境、女性や若者も参加しやすい、固定メンバーの後継者が必要(持続していくため)

ウ 役員

あて職と有志(公募)を混ぜる

※組織力のある区長+やる気のある市民→市民が意識をもち、リードする(声をあげやすい環境～女性や若者を巻き込む)

エ 行政と市民とのかかわりあい

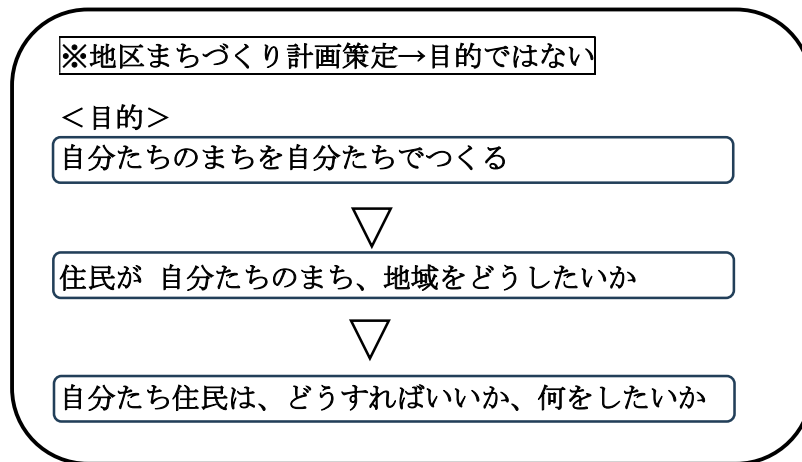
※歯車が合わないといけない。公民館・社会教育委員等

これからの公民館はコミュニティの中心

個人を豊かにする時代から社会・地域を豊かにする時代へ

(人口減少社会における社会教育の重要性)

図1 まちづくり計画とは



(7) 今後の計画づくりに向けたロードマップ提案

提言をまとめる委員間の協議の中で、以下のような意見が出されました。

「(まちづくり計画策定という重いものより) 各地区のキャッチフレーズを募集してはどうか」

例えば、吉川地区でコウノトリの飛来という事象が、自然にファンクラブづくりにつながったように、何か住民全体の思いを一つにするような象徴的なものがあれば、人はつながりを感じられます。同じように、まず地区の特徴と目指すべき姿を端的にまとめたキャッチフレーズがあれば、目的を共有できる住民の皆さんが自然に集い、仲間・組織ができてくるものです。

実は、他の市町で作られている地区版計画も、行政やコンサルティング会社が作るような重厚長大なものでなく、まずは住民が目指す目標を定めたものが多いと思われます。

そのように考えると上で出された「地区のキャッチフレーズづくり」は、まさにそれと方向性を同じくするものです。

「計画づくり」などと大げさに考える前に、思いを持った住民の自発的な参加を誘発することこそが目的であり、そのための手段が「計画づくり」と考えてみてはどうでしょうか。

各地区でまちづくり計画を策定する場合、地区ごとのスローガン等、どんなまちにしたいか具体的指標があれば取り組みやすい。組織づくりがすすんでいない場合は、その地区の地区公民館、区長会、まちづくり組織など、どこが中心となるかが課題であると思われます。

今期の提言では、2年間の委嘱期間では、すすめなかった反省も踏まえて、今後の市民協働のまちづくり、市民主役のまちづくりについて、次期につないでいきたいと考えています。

地区まちづくり組織(3原則:①計画がある ②だれでも入れる仕組み ③分野別組織あり)が充実していけば、課題のひとつである役割分担もスムーズになり、人づくりのなかでも重要な主体的住民意識の醸成、持続可能なまちづくりの実践へと活動が広がっていくことでしょう。地区まちづくり計画の策定は、その手段として、とても重要です。

<「市民活動・NPOにおける市全体の活動計画づくり（市民活動版グループ）」の活動内容報告>

2 市民活動・NPOにおける市全体の活動計画づくりについて

(1) 目的・役割

新しい公共サービスの創造を市民目線から提案し、市民活動の活発化について活動しました。

(2) コンテキスト（文脈・背景）

第8期の振り返りと今期の活動について

市民が一人ひとり自分らしく生きられるフィールドとしての鯖江をつくるため、自分の生きやすさとはなにか・目標はなにか。そのために自分が行うこと、そのために環境（他者）に求めることを棚卸するためのカードをつくりました。このカードの活用を広げることで、市民同士が相互に理解し合い、自分らしい人生のヒントになれば幸いです。

(3) ターゲット

一市民として日常を愛しながら暮らすことも、市民として活発に市民活動に参画することも、どんな生き方も受容していける鯖江になってほしい。

その前提ではあるものの、総括してみると今期の市民協働推進会議市民活動グループでは、活発に市民活動に参画したい人、すでに参画している人に焦点を当てて活動を始めました。

コラム「あたたかなまち」 上坂 季美子

一人ひとりが個性という大きな力を持っています。

暮らしの中で、大事にしているつながり

つながりの「和」をつなぐと大きな輪になります。

手を取り合うことでまちづくりの輪が広がります。

あなたの目の前に、もう素敵な「和」をもっていますね。

子供たちの輪、ママ友の輪、パパ友の輪、趣味の輪、友人の輪

お隣の輪とつながるだけで輪が大きくなります。

声に出して伝えましょう、私の好きな鯖江のことを

ワクワクの輪を一緒に大きく育てましょう。

あなたの個性が生きる未来の鯖江を

手を取り合うなかまの「和」を増やして

みんなでつむぎましょう。

わたしたちのあたたかなまちのために

(4) 経緯とアンケート

市民活動に取り組む人に焦点を当てた経緯として、市民主役 EXPO の開催がありました。令和4年10月に市民主役 EXPO が開催されることとなり、市民協働推進会議としても「市民団体のパネル展示」で企画協力することになりました。

そこで、先述のカードを市民団体版に改良した**さばえ未来カード**を作成し、市内の活動団体にアンケートの協力依頼を行いました。

さばえ未来カード

鯖江の誇りは、何といっても私たちの市民力！
私たちの強みをさらに発信し、市民活動の連携にもつなげたい——。そんな願いからこの「さばえ未来カード」を作りました。
皆様の熱い思いや意気込みなどを教えてください。

フリガナ
団体名

フォームからも回答
できます
※PCの方は、鯖江市民活動
交流センターのホームページ
「どやの」にもリンクがあり
ます。

フォーム
QRコード

- あなたの団体・グループはどのようなミッション（目標）で活動していますか？
- あなたの団体・グループの活動は誰に向けたものですか？
- 持続可能な開発目標「SDGs」が掲げる2030年は、どのような未来になっていると思いますか？ 思い描く未来像を自由にお書きください。※各目標については裏面参照
- 2030年の未来に向けて、あなたの団体・グループがしたいこと／やるべきことはどのようなことですか？
- あなたの団体・グループの長所、持ち味はなんですか？
逆に、必要としていることや弱点はなんですか？

【長所・持ち味】

【必要なこと・弱点】

裏面につづく

<基礎情報> ※わからない部分は空白でかまいません

代表者名

ホームページURL

連絡先（公開可能なもの）
【電話番号】

【メールアドレス】

連絡先（非公開／さばえNPOサポート・行政からの連絡で使用します）
【住所】

【電話番号】

【メールアドレス】

活動開始（年、月まででも可）
西暦 年 月 日

正会員数

賛助会員数

直近5年間のおもな活動概要（最大5つまで）

この中に、他団体・企業、行政等との協働事業はありますか？ ある ・ ない

団体のひと言PR（心掛けてのこと／理念／キャッチフレーズなど 30文字まで）

市民主役EXPOでの公開を希望
する ・ しない

さばえNPOセンターホームページ「どやの」での公開を希望
する ・ しない

SDGsの17目標のうち、団体・グループの活動に合うものをチェック ☒ してください（最大5つまで）

<SDGsの17の目標>

17. パートナリシップ
目標を達成しよう

パートナーシップ

経済

社会

環境

活動写真・団体ロゴ等データご提供のお願い（最大5枚まで） 宛先：info@sabae-npo.org
本文に 団体名 を書いてメールでお送り下さい。 ※ホームページ・市民主役EXPOの展示で使用するいただく場合があります

図2 さばえ未来カード

アンケートは、パネル展示のための情報集約の目的でしたが、まずは団体の活動目的や活動詳細を明確にし、SDGs という共通言語にどれだけ感度が高く、どの程度まで団体同士の協働を目指せるか、それぞれの団体のミッション（目的）、誰に向けた活動か、グループがしたいこと、長所や弱点などを把握することにしました。

パネル作成展示に終わることなく、集約した情報をもとに市民活動支援センター（NPOセンター）のHPの情報も更新されました。

(5) アンケート結果

約50団体から回答を得ることができ、市民団体が抱える必要なこと・弱点が浮かび上がりました。

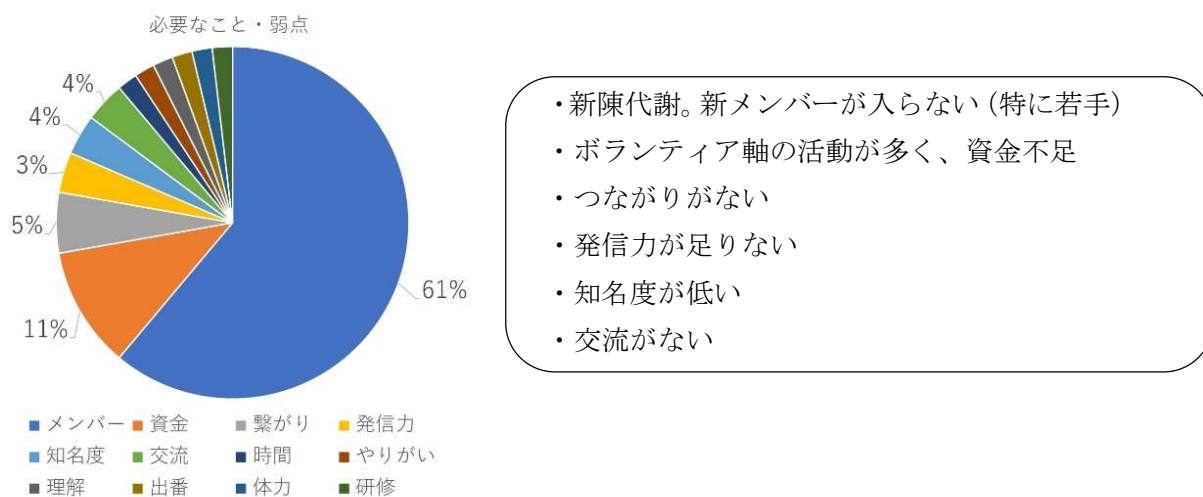


図3 アンケート結果と概要

メンバー不足≫資金不足>つながり不足、交流不足、発信力不足、知名度不足

という結果となりました。資金不足が筆頭に上がると予想していた企画側からすると、少し意外性があった。資金以外のすぐに改善できる項目を抽出していくと、

①新規層の獲得

②横連携（つながり・交流・発信力）の不足

が課題としてまとめられます。

(6) 市民活動の受け入れ態勢の課題

鯖江は市民活動が盛んで、まちづくりに意欲の高い市民が多いというイメージがあります。各団体活動を見ていくと、たしかに幅広い分野において明確な意思を持って活動をしている団体が多いです。

しかし、それらの団体は、個性は目立つが相互に協働はできていない印象があります。

せっかく意思を持って活動しているのに、身内感の強さがあり、市内でどんな団体がどんな活動をしているかお互いに知らない部分が多いです。

こういった意見は以前より活発に市民活動をしている人の中では散見された意見ではありましたが、今回のアンケートにより、より明確化されることとなりました。

では ①新規層の獲得 について「鯖江でこんな活動をしてみたい」と新規参入の市民が思い立ったとき、その活動がすでに市内の活動団体で行われているものとして、その市民がその活動グループの情報にアクセスできるのか？と考えると、発信力が課題というアンケート結果を見ても、できないというのが答えではないだろうかと思います。

また、区長など地区の持ち回り仕事にも通ずるが、「新しい目線で若い人に参加してほしい」と若手の新規参入者を求めている団体の声は多いが、では「動きたい気持ちはあるがまだ一歩を踏めていない」というような新しい層にアプローチし、参画しやすい環境を作り、いかに“やってみたい“という背中を押すことができているかということ、できている団体はそう多くはないのではないかと考えます。

コラム「自分らしさ・自分の強みをまちづくりにおすそわけ」 谷内 由美子

鯖江市に住んでいると「まちづくり」という言葉によく出会います。あなたもまちづくりに関わってください！と言われると、そんなたいそうな事はできませんと思われ方もいるかと思いますが、私はこんなふうに思います。

人は存在するだけで住民となりまちを構成する一員です。自分の家の周りを清掃すれば町の環境保全や市民の安全に繋がり、家の外で「おはよう」と挨拶をすれば、相手の存在を理解して心を寄せるあたたかいまちづくりに繋がります。

このように家庭以外で行動することが、まちづくりに繋がっていることが多いのです。そこに、自分の個性や得意なことがあると更にまちづくりに広がりが出てきます。例えば、私はおせっかいで思い立ったら体が動いてしまう個性があるため、行事の準備や運営するスタッフには適任です。情報を集めてキャッチコピーを作れる人、お花の世話をするのが好きな人、たくさんの繋がりを持っている人、一つの事を正確に丁寧にやってくれる人と住民の数だけ素晴らしい力（個性）が地域には存在しています。自分のもてる力を自分の強みと受け止めているいろんな場でおすそわけすることは、自分の人生が楽しくなるのではないのでしょうか。

人が社会で生きる時に家族や周りの人を尊重することはとても大切です。まちづくりやボランティアにおいても、関わる人を尊重し一緒に手を繋いでもらうことが発展と継続につながります。（SDGs 目標の 11 番住み続けられるまちづくりを）そして、更に大切なことは、一人一人の考えが違うので目的を達成する為に一人一人がどんな方法ならば一緒に作れるのかを話合うこと、対話が大切です。対話のポイントは、感情だけでなく何故その人がそう考えるのかを聴くことです。

自分の人生を楽しく豊かに生きるには、自分に関わる人と時間を共有する、時には刺激をもたらし合いながら互いを思うことだと考えます。その前にまずは自分が自分の思考や行動のくせを受け入れること。そして自分に関わる人と事に繋がりましょう。

自分らしさを活かして関わる相手も活かし、共に暮らすまち（地域）を明るくする！
それが私たち鯖江市民です。

②横連携の不足 に対しても、他の市民活動グループがどのような活動をしているのか知らない、適切な情報交換や連携事業などの実現はできないでしょう。

コラム「市民が協働することで活動の幅が広がる」 山本 建

私が所属している鯖江青年会議所は鯖江市を中心にまちづくり事業や青少年育成事業などの活動に取り組んでいます。多方面のご理解とご協力のお陰もあり、本年60周年の節目を迎えました。私たち鯖江青年会議所だけでなく鯖江市内には多くの市民や団体がまちづくりや子どもたちの健全育成、環境活動などさまざまな活動を行っている市民力の高い地域です。

しかしながら、多くの団体はメンバーの減少や高齢化により実施事業の規模が縮小傾向にある共通の悩みがあるのではないのでしょうか。私たち鯖江青年会議所も例外ではなく以前に比べれば大幅にメンバーが減少しました。そうした中でも活動を継続するなら妥協せずに地域に必要とされる活動を展開する必要があると出来る範囲でやろう！ではなく、出来る方法を考えて事業構築をしています。

私たちはコロナ禍においても鯖江に新しいイベントを根付かせようと、まちに良い事と楽しい事を掛け合わせた「鯖ハピキャン」を市民と共に立ち上げました。まちに良い事は環境活動、楽しい事は中山公園でのグランピングキャンプです。しかし、私たちのメンバーには環境の専門家もキャンプの専門家も居ません。私たち単独では決して実現できない企画でも、環境活動をエコネットさばえ、キャンプの知識は知見ある市民に協力を求め実現することができました。

その他にも子どもたちに自己肯定感を育ませる企画の際もみんなしゃか（みんなで社会を学ぶ会）に協力を求めるなど、同じ鯖江市内で活動する様々な市民や団体が自分たちの強みを活かし弱いところを補い合うことでそれぞれの市民活動の幅が広がります。市民や団体が協働する、しやすい環境を整えることで鯖江市の市民活動はさらに活発になると思います。

(7)今後、市民活動をさらに発展していくためにとるべき行動

まずは、既存の活動について「目的や具体的活動を明確化」し、「情報開示」することで①②の課題を解決できるのではないのでしょうか。

- | | |
|---------|---|
| ①新規層の獲得 | <ul style="list-style-type: none">・ 外から見てわかりやすい情報が開示されている。・ 新規参入者が自分のやりたいこととマッチしているか判断できる。・ 新しい取り組みなどを受容する。 |
| ②横連携の不足 | <ul style="list-style-type: none">・ 外から見てわかりやすい情報が開示されている。・ 自グループのウィークポイント（弱点）を別グループのノウハウで補うことができるか判断できる。・ お互いに興味を持ち、鯖江をより良くするという同じ目的に向かって活動する同士協力できる体制をつくる。 |

さらに、2022 年度のサバヌシ総会や第 8 期市民協働推進会議の提言でも上がったように、「市民活動の情報と要望をコーディネートしマッチングする」コーディネーターのような役割の要望も、今回のアンケートから見えた課題意識や要望と重なってくるのではないのでしょうか。

コーディネーターには、市内の活動について熟知し、やってみたいことを相談すれば近道になる（既存の活動に接点をつくる、などきっかけ程度）ようなサポートを担ってもらいたいと考えます。

「明確化」「情報開示」の具体的な手法

- ・広報さばえに掲載する団体紹介コーナーの充実
- ・市民主役フェスの団体紹介パネル展示の活用
- ・市民主役フェスのパネル展示を冊子にまとめ、各公民館に 1 冊ずつ設置

「情報コーディネート」の具体的な手法

- ・マッチングに特化したコーディネーターの配置

コラム「市民活動の基礎は人とのつながりから」 青山 茂右衛門

鯖江市は、他の市町に比べると人口割合では比較的ボランティアやNPO等の活動が活発であると言われていますが、さほど多いようには感じられません。その要因として、一人で複数の活動組織に参画していることが多く、活動している個人数はあまり多くないのではないかと思います。活動する人としない人がはっきり分かれてしまい、なぜつながりが必要なのかを見い出せずにいる人が多いことも要因の一つであろうと考えられます。

この活動人数が増えてくれば、活動の輪が広がり、色々な横の連携やつながりが増えることにより、更に多くの人を引き込むことができるでしょう。

しかしながら昨今の人とのつながりは、他人との付き合いを避けるような風潮が見られます。これはご近所や地域においてもしかり、強いては職場のような環境においてできえもそのようなことが起き始めています。自分の趣味や関心のあることなどには関わりを持ちますが、それ以外のことに関わることは、面倒なこと、厄介なことのよう思われているようです。他人のことには目を向けない、向きたくない、関わりたくないといった心情からでしょう。現代の生活習慣は、自分や家族のためだけに時間を費やし、余暇を楽しむといったスタイルに変貌しています。昔の暮らしでは、何か物事が起こればご近所や町内の住民が一丸となり手伝いをしたものです。また、ご近所には一人や二人、お節介をやく人がいました。つながりを無くしては生活できない環境でした。今では、このつながりがほとんど無くなってきてしまいました。

昔のつながり方の善し悪しは別として、人とのつながりを大切にすることは、他人への関心や思いやりが醸成します。そしてそれが広がることでご近所や町内、更には地域や市全体へと広がり、大きな市民活動への原動力になっていきます。その結果、地域のつながりやまちづくりとなり、市民活動への輪が広がっていくのです。

3 まとめ

(市民主役のまちづくり活動の経緯)

鯖江市には、まちづくりに積極的に参加する多くの市民がいるという「市民力の土壌」があり、この土壌をつくるきっかけは、1995年(平成7年)に鯖江市で開催された「世界体操競技選手権大会」にさかのぼり、小さな地方の自治体が、市民による「おもてなし」の力で、世界大会を成功へと大きく導かれ、鯖江市ならではの「おもてなし」が実現したといわれています。この経験が、市民の「やればできる」という大きな自信となり、まちづくりに参加する市民が増え、市民によるまちづくり活動が広がっていき、市民の意識が高まる中で、2003年(平成15年)に市民からの提案により「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例、施行規則」が制定・施行されました。新しい公共サービス(行政に頼り切るのではなく民間が担えるところは、民間が担っていく)の創造を市民参加で進めるため、「市民協働推進会議」が設置され、委員は公募により市長が委嘱し、新しい公共サービスの創造の推進、市民活動の活性化に関して市長へ意見を提案することができると明記されています。

現在は第9期委員が活動しており、今期提言書を提出させていただくこととなりました。

2010年(平成22年)に市民提案による「自分たちのまちは自分たちがつくること」を明文化した市民主役のまちづくりの基となる「鯖江市民主役条例」が制定され、その翌年、「提案型市民主役事業化制度」がスタートし、行政が市民力を信じ、事業を市民に任せることで、市民と行政の信頼関係も生まれ、市民がまちづくりに積極的に参加する「市民主役のまちづくり」が大きく広がっていきました。この取り組みは、当時、全国初として注目され、「市民主役」といえば「鯖江市」と言われるほど知名度があったようでした。

(今後の市民主役のまちづくり活動)

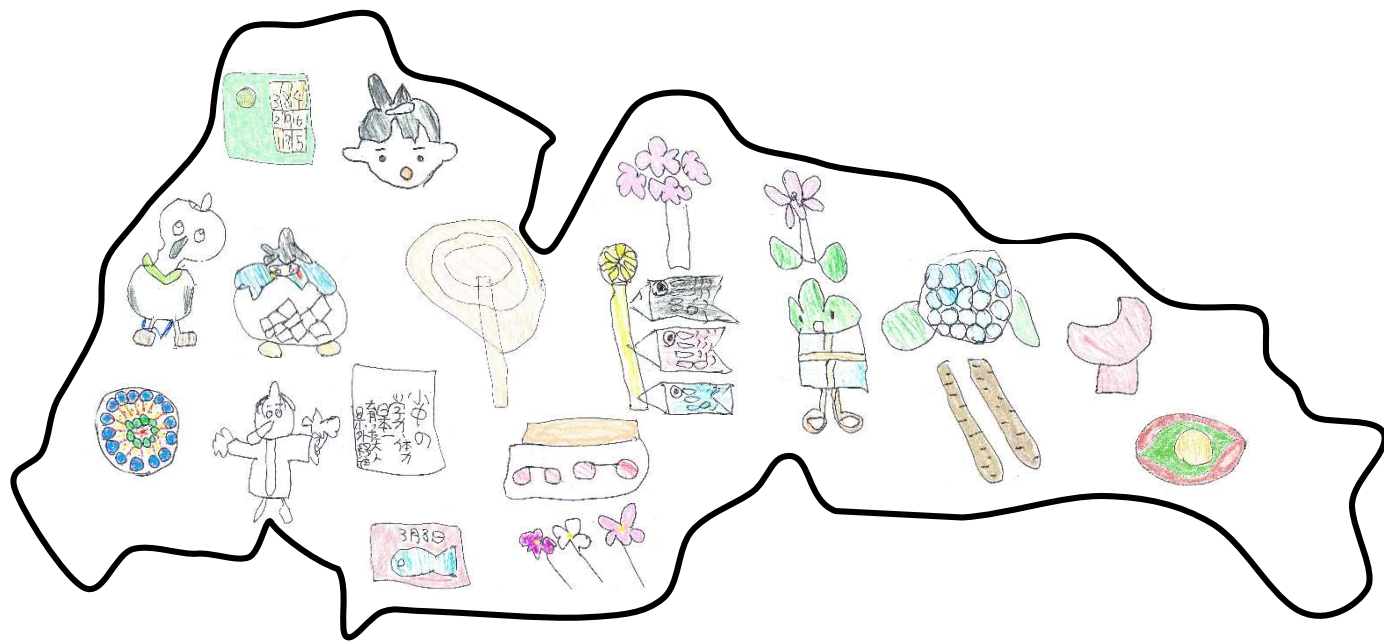
現在は、市民主役まちづくり事業は全国的に広がっており、福井県内の近隣自治体においても、地区まちづくりの手段としての地区まちづくり計画の策定、まちづくり組織の充実がすすんでいます。

少子化や核家族化が進んでいる中で、ますます高齢化が進んでおり、ご近所付き合いや地域行事への参画、また、町内や地域組織等への関わりの希薄さが顕著になり、今後、人口減少社会が加速し、人づくりのなかでも重要な主体的住民意識の醸成、持続可能なまちづくりの実践がさらに必要になっていくと考えます。

私たち第9期市民協働推進会議では、第8期に提言された『市民で創る市民活動計画』について、どのように市民が関わって創っていくのが良いのかを深掘りするなかで、鯖江市のまちづくりにおける課題を克服するには、自らの気づき、他人事ではない住民意識の醸成、人とのつながりが必要であると考えました。

人とのつながりを大切にすることで、他人への関心や思いやりが醸成します。そして、それが広がることでご近所や町内、更には地域や市全体へと広がり、大きな市民活動への原動力になって行きます。その結果、地域のつながりやまちづくりとなり、市民活動への輪が広がっていきます。

そのためには、行政の関わり方も重要であり、住民が自ら気づきを得て、鯖江市民の高い市民力を発揮して、市民主役のまちづくり、持続可能なまちづくりにつながるよう、今後の市の「伴走」支援を期待しています。



作 前田 三津夫

【別紙】第9期市民協働推進会議 活動記録

日 付	会 議 名	検 討 内 容 等
令和3年 11月11日	委嘱式	委嘱状交付、自己紹介
12月15日	第1回市民協働推進会議 (全体)	市民協働のまちづくりについて、過去の市民協働推進会議の活動について
令和4年 1月20日	第2回市民協働推進会議 (全体)	新型コロナウイルス感染拡大のため延期
3月16日	地域づくり学習会	第1部・地域づくり発表事例「ここに生き続けられるために」(講師・大野市和泉自治会) 第2部・地域づくりのためのオンライン活用「ふるさとの資源に世界の人や企業をつなぐ」(講師・(株)ExSATOYAMA 代表 山内孝紀氏)
5月31日	第3回市民協働推進会議 (市民活動版)	今後の活動計画について
6月28日	第4回市民協働推進会議 (地区版)	地区版計画作成の進め方について
6月30日	第5回市民協働推進会議 (市民活動版)	さばえ市民主役 EXPO との連携について 市民団体アンケートについて
7月5日	NPOサポートとの打ち合わせ	さばえ市民主役 EXPO アンケート打ち合わせ ※根本委員が出席
7月14日	NPOサポートとの打ち合わせ	さばえ市民主役 EXPO アンケート&展示打ち合わせ ※根本委員・川口委員が出席
7月26日	第6回市民協働推進会議 (市民活動版)	アンケート調査「さばえ未来カード」について さばえ市民主役 EXPO 展示のコンセプトについて
8月1日	市区長会連合会三役会への出席	※森本委員が地区版計画づくりについてレクチャー
8月2日	市区長会連合会会長会への出席	※森本委員が地区版計画づくりについてレクチャー
8月19日	NPOサポートおよびさばえ市民主役 EXPO 展示関係者との打ち合わせ	さばえ市民主役 EXPO 展示内容打ち合わせ ※根本委員・川口委員が出席
8月24日	第7回市民協働推進会議 (市民活動版)	さばえ市民主役 EXPO における「さばえ未来カード」の活用方法について さばえ市民主役 EXPO での展示候補団体について

日 付	会 議 名	検 討 内 容 等
令和 4 年 9 月 15 日	第 8 回市民協働推進会議 (全体)	各グループからの活動報告 市民活動交流センターの今後のあり方（市民主役所構 想）について 「市民主役所検討会（仮称）」の立ち上げについて
9 月 20 日	NPOサポート理事長・ 市民主役条例推進委員長 との打ち合わせ	市民活動交流センターの今後のあり方に関する議論の進 め方について ※青山委員長が出席
10 月 1 日	さばえ市民主役 EXPO テー プカット	※青山委員長が出席
10 月 8 日	さばえ市民主役 EXPO 協賛 市民まちづくり応援団ま ちづくり講座	「地区におけるまちづくり計画づくり」 ※講師 森本委員／聞き手 若林委員（57 人が参加）
10 月 10 日	サバヌシ座談会	市民活動交流センターの今後のあり方（市民主役所構 想）について議論 ※青山委員長が出席（42 人が参加）
10 月 24 日	市民主役所検討会（仮 称）	※青山委員長が出席
11 月 2 日	市民主役所検討会（仮 称）	※青山委員長が出席
11 月 21 日	市民主役所検討会（仮 称）	※青山委員長が出席
11 月 29 日	第 9 回市民協働推進会議 (全体)	市民主役所検討会（仮称）の経過報告について
12 月 15 日	市民主役所検討会（仮 称）意見書提出	検討会での検討結果を市に提出 ※青山委員長が出席
令和 5 年 2 月 13 日	吉川公民館長・職員との 意見交換	地区版計画の策定予定について ※青山委員長・森本委員が出席
2 月 27 日	第 10 回市民協働推進会議 (全体)	本年度の活動ふりかえり 次年度の活動について サバヌシ総会について
5 月 22 日	第 11 回市民協働推進会議 (地区版)	第 9 期活動、今後の進め方、 地区の聞き取り等について

日 付	会 議 名	検 討 内 容 等
令和 5 年 5 月 31 日	吉川公民館長・職員との 意見交換会	・吉川地区まちづくり現状、地区体制づくりについて ※青山委員長、事務局出席
6 月 6 日	第 12 回市民協働推進会 議（市民活動版）	第 9 期活動、今後の進め方等について 根本委員、橋本アドバイザー
7 月 10 日	第 13 回市民協働推進会 議（地区版）	第 9 期活動、今後の進め方（提言）等について
7 月 19 日	第 14 回市民協働推進会 議（市民活動版）	第 9 期活動のおさらい、提言書提出に向けた内容整理
7 月 26 日	吉川公民館長・職員との 意見交換会	吉川公民館ヒアリング
8 月 3 日	鯖江公民館長・職員との 意見交換会	鯖江公民館ヒアリング
8 月 9 日	河和田公民館長・職員と の意見交換会	河和田公民館ヒアリング
8 月 17 日	第 15 回市民協働推進会 議（市民活動版）	ヒアリングまとめ
8 月 21 日	第 16 回市民協働推進会 議（地区版）	提言書について
9 月 4 日	坂井市学び合いの場・全 国オンラインフォーラム	子どもの課題解決型地域づくりへの取り組み ※谷内委員が出席
9 月 11 日	第 17 回市民協働推進会 議（全体）	提言書について
10 月 4 日	第 18 回市民協働推進会 議（全体）	提言書について
11 月 10 日	提言書提出・講演会 ワークショップ	

市民協働推進会議	18回
外部会議・座談会・学習会参加	11回
外部意見交換・打合せ	9回
委嘱式・提言書提出	2回
活動回数	計 40回

第 9 期市民協働推進会議委員名簿（委嘱期間：2 年間 R3.11.22～R5.11.21）

		氏 名	主 な 活 動 団 体 (R3. 11 月委嘱当時)
1	第 9 期 委員長	青山 茂右衛門	特定非営利活動法人さわやかさばえボランティア虹
2	委員	石井 瑞紀	河和田アートキャンプ
3	委員	上坂 季美好	鯖江市子ども会育成連絡協議会育成委員、鯖江市行政評価 委員会委員
4	委員	片山 弘敏	区長、鯖江地区まちづくり応援団事務局長、鯖江駅前交番 駐在所連絡協議会副会長
5	委員	川口サマンサ	市民団体「なろっさ！ALLY さばえ」
6	委員	谷内 由美子	立待まちづくり応援団 代表
7	委員	西野 茜	学生団体 with
8	委員	根本 楓	鯖江市地域おこし協力隊
9	委員	橋本 國宏 (R5. 8. 28 逝去)	区長、元地区会長、元鯖江市区長会連合会会長、 元福井県自治会連合会会長、鯖江地区市民まちづくり応援団代表
10	委員	前田 三津夫	片上スポーツ協会理事、近松門左衛門の着ぐるみアクター
11	委員	森本 茂	北中山まちづくり委員会副会長、元公民館長
12	委員	山本 建	鯖江青年会議所副理事長、青少年健全育成鯖江市民会議理 事、日野川を美しくする会理事
13	委員	若林 みゆき	吉川地区子育て支援ネットワーク、吉川公民館運営協議会 委員